

【前回の会議での議論】

- ・ ヒアリングの共通要素として、①長く続いてきた伝統への敬意、②権力と権威の分離の重要性、③皇族数の減少への対応への必要性があったのではないかと。
皇室制度を支える様々な方々の気持ちや立場にも思いを致しながら、考えられる選択肢を予断なく考えていきたい。
- ・ 皇位継承順位を尊重することと、将来に備えて皇族数を確保する具体策として、旧宮家の子孫の方を皇族にすることと内親王・女王が婚姻後も皇族の身分を保持することについての検討を開始するとの方向を示し、細部の要検討課題は今後の議論に委ねていくことが現時点で適切な方向ではないかと。
- ・ 皇室・皇族について自分事として捉えられないことが、国民にとって皇室・皇族が遠い存在になる原因の一つではないかと。上皇陛下のメッセージに国民が大いなる共感を抱き、退位を後押しし、この会議にもつながっていることを思えば、もっと皇族の皆様の気持ちに寄り添うことが大事ではないかと。
- ・ 伝統とその時々々の価値観をどう両立していくかは大きな課題であり、長期的なスパンで考えなければならない。ヒアリングでは、これまで皇室は危機的な状況にも知恵を絞りながらつなげられてきたという意見があった。それを現代に引き継ぎ、将来に向けていい形をつないでいくためには、可能性を広げ、風通しを良くすることが必要ではないかと。
- ・ 長い時間軸で考慮すべきことと、喫緊に制度改正を行うべきことを分けて考えることが必要ではないかと。特に、皇位継承に

については、現在の順位を尊重するということには幅広い理解が得られるのではないか。女性天皇・女系天皇については、将来、安定的な皇位継承が困難となった段階の問題として、現段階で早急に結論を出すべきではないのではないか。

- 婚姻後の女性皇族の身分保持については、一定の条件・制約の下で皇族の身分を保持することに前向きな意見が多かった。比較的多くの緩やかな賛成があったといえるのではないか。
養子縁組を含めた皇統に属する男系の男子の方々が皇族となることについても、比較的前向きな意見が多くあったのではないか。
- 女性天皇と女系天皇の違いなど、事実関係に対する正しい理解の促進が必要ではないか。
また、安定的な皇位継承の確保という目的と、皇族数減少への対応という手段の関係を整理して考えていく必要があるのではないか。
- 長期的なスパンで考える部分と、目の前の解決すべき問題として考える部分とを整理することが重要。あまり急ぎすぎず、しかし、いざというときには慌てないという時間軸をどのように設定していくかは、大変重要なポイントではないか。
- 皇室典範を改正して対応するのか、特例的にそのとき限りのものとして対応するのか、意識する必要があるのではないか。
- この会議で議論していることが、皇族方の人生にとって大きな壁になってはならない。よりよい形で将来につないでいける方向を示したいという気持ちも表明していった方がよいのではないか。

【前回の会議で確認された議論の前提】

- ・ 皇位継承の歴史や伝統は、大変重い。
 - ・ 皇位の継承という国家の基本に関わる事柄については、法的な安定性が極めて重要。
 - ・ 次世代の皇位継承者がいらっしゃる中での大きな仕組みの変更は、十分慎重でなければならない。
 - ・ 現行制度の下での皇族方のこれまでの人生も重く受け止める必要がある。
- ➡ 今上陛下から秋篠宮皇嗣殿下、次世代の悠仁親王殿下という皇位継承の流れをゆるがせにはならない。
- ・ 悠仁親王殿下以外の未婚の皇族が全員女性であることを踏まえると、悠仁親王殿下が皇位を継承されたときには、現行制度の下では、悠仁親王殿下の他には皇族がいらっしゃらなくなることが考えられる。
- ➡ 皇位継承の問題とは切り離して、皇族数の確保を図ることが喫緊の課題。

【本日の議論】

- ・ 悠仁親王殿下の世代における皇族数をどのように考えるか。
- ・ 皇族の確保のための具体的な方策をどのように考えるか。
- ・ 女性皇族に婚姻後も皇室に残っていただくことについてどのように考えるか。
- ・ 皇族との養子縁組についてどのように考えるか。
- ・ 皇統に属する男系の男子を法律により直接皇族とすることについてどのように考えるか。